

第70期定時株主総会招集ご通知に 際してのインターネット開示事項

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

第70期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

株式会社 **マルイチ産商**

上記の事項につきましては、法令及び定款第17条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.maruichi.com/ir/>)に掲載することにより、株主の皆様にご提供いたしております。

【連結注記表】

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 連結の範囲に関する事項

- ・連結子会社の数 14社
- 連結子会社の名称 ㈱丸水長野県水、マルイチ・ロジスティクス・サービス㈱、大信畜産工業㈱、信田缶詰㈱、㈱ナガレイ、ファーストデリカ㈱、㈱山政北海屋、㈱丸一北海屋、㈱三共物産、魚信㈱、マルゼンフーズ㈱、アスコット㈱、㈱エム・フーズ、㈱丸水運送センター

(2) 持分法の適用に関する事項

- ・持分法適用の関連会社の数 2社
- 持分法適用の関連会社の名称 ㈱北信食肉センター、㈱ヨネコバ
- ・持分法を適用していない関連会社（松本市場管理㈱他1社）は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

- ・連結子会社の事業年度の末日は、すべて連結決算日と一致しております。

(4) 会計方針に関する事項

①重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

- ・時価のあるもの ……決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
- ・時価のないもの ……移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

- ・商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品
……移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、一部の生鮮品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

②重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

- ……定率法。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物及び構築物……………10～47年
機械装置及び運搬具……………6～12年

- ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）
 - ・ソフトウェア（自社利用）
 - ……社内における見込利用可能期間（主に5年）に基づく定額法によっております。
 - ・その他の無形固定資産
 - ……定額法
 - ・のれん
 - ……5年間の定額法によっております。
- ハ. リース資産
 - ……リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

③重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金
 - ……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金
 - ……従業員の賞与支給に充てるため、翌連結会計年度の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。
- ハ. 役員株式給付引当金
 - ……業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」に対応するため、対象取締役に対して、役員株式給付規程に基づく期末要支給額を計上しております。
- ニ. 債務保証損失引当金
 - ……債務保証等の損失に備えるため、被保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

④その他連結計算書類作成のための重要な事項

- イ. 退職給付に係る会計処理の方法
 - ……退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
 - 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から費用処理しております。
- ロ. 消費税等の会計処理
 - ……消費税及び地方消費税は税抜方式によっております。

2. 追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、対象取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除きます。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、対象取締役が中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust））」を導入しております。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じて、総額法を適用しております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、対象取締役に対して、当社取締役会が定める役員株式給付規程に従って、原則として当社株式が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当連結会計年度末71百万円、78千株であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

①担保に供している資産

建物及び構築物	254百万円
土地	1,461百万円
投資有価証券	391百万円

②担保に係る債務

支払手形及び買掛金	608百万円
その他固定負債	169百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 14,692百万円

4. 連結損益計算書に関する注記

減損損失

当社グループは、保有固定資産をセグメント別に把握したうえで、各地域における物流機能・顧客政策等を勘案してグルーピングし、減損会計を適用しております。また、将来の使用が見込まれていない遊休資産、処分予定の資産等については、個々の資産ごとに減損の可否を検討しております。

以下の固定資産は、当初想定していた収益が見込めなくなったことや売却を予定していること等から、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により測定している場合には、将来キャッシュ・フローを3.85%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額により測定している場合には、売却見込額に基づき算定しております。

(単位：百万円)

場所	主な用途	種類			
		建物及び 構築物	土地	その他	計
長野県松本市	貸貸資産	49	340	—	389
長野県上田市	事業用資産	9	68	—	78
長野県松本市	売却予定資産	22	—	23	46
	計	82	409	23	515

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
普通株式	23,121,000	—	—	23,121,000

(2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
普通株式	1,069,496	420	4,200	1,065,716

- (注) 1. 当連結会計年度末の自己株式には「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式78,300株が含まれております。
2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取分384株、持分法適用関連会社が取得した自己株式(当社株式)の当社帰属分36株によるものであります。
3. 自己株式の数の減少は、「株式給付信託(BBT)」からの給付による減少4,200株であります。

(3) 剰余金の配当に関する事項

①配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	265百万円	12円00銭	2019年3月31日	2019年6月26日
2019年11月8日 取締役会	普通株式	66百万円	3円00銭	2019年9月30日	2019年12月4日

(注) 1. 2019年6月25日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

2. 2019年11月8日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2020年6月23日開催の定時株主総会において、配当に関する事項を議案とする予定であります。

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	309百万円	14円00銭	2020年 3月31日	2020年 6月24日

(注) 2020年6月23日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれております。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は短期的な預金等で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、売買目的有価証券及び満期保有目的の債券以外のその他の投資有価証券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金はほとんどが2ヶ月以内の支払い期日であります。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門及び企画管理部門の担当部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手毎に期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて同様の管理を行っております。

ロ. 市場リスク（株価や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。連結子会社についても同様の管理を行っております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが困難と認められるものは含まれておりません（（注2）．参照）。

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価 （百万円）	差額 （百万円）
(1) 現金及び預金	8,836	8,836	—
(2) 受取手形及び売掛金	17,919	17,919	—
(3) 未収入金	2,503	2,503	—
(4) 投資有価証券	2,180	2,180	—
資産計	31,438	31,438	—
(1) 支払手形及び買掛金	20,772	20,772	—
(2) 短期借入金（*1）	1,200	1,200	—
(3) 未払金	2,465	2,465	—
(4) 未払法人税等	345	345	—
(5) 長期借入金（*2）	1,020	1,020	△0
負債計	25,804	25,804	△0

（*1）長期借入金の1年内返済予定額を含めておりません。

（*2）1年内返済予定額を含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

(資産)

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

時価については、株式等は取引所の価格によっております。

(負債)

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

- (5) 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは帳簿価額を時価とし、固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該長期借入金の元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	533

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(4) 投資有価証券」には含めておりません。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	976円23銭
(2) 1株当たり当期純利益	59円11銭

8. その他の注記

(1) 税効果会計関係の注記

①繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産	
投資有価証券評価損	52百万円
賞与引当金	189百万円
貸倒引当金	59百万円
退職給付に係る負債	275百万円
債務保証損失引当金	18百万円
減価償却超過額	93百万円
資産除去債務	19百万円
減損損失	614百万円
子会社の税務上の繰越欠損金	281百万円
その他	274百万円
<hr/>	
繰延税金資産小計	1,879百万円
評価性引当額	△1,036百万円
<hr/>	
繰延税金資産合計	843百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△64百万円
その他有価証券評価差額金	△279百万円
土地評価益	△87百万円
退職給付に係る資産	△48百万円
その他	△68百万円
<hr/>	
繰延税金負債合計	△547百万円
<hr/>	
繰延税金資産の純額	295百万円

②法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の主な項目別内訳

法定実効税率	30.5%
(調整)	
交際費等永久に損金算入されない項目	1.2%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	△0.6%
住民税均等割	1.5%
評価性引当額の増加額	2.6%
のれん償却額	1.2%
その他	1.9%
<hr/>	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.2%

【個別注記表】

1. 重要な会計方針に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①子会社及び関連会社株式……移動平均法による原価法

②その他有価証券

・時価のあるもの ……決算日の市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの ……移動平均法による原価法

③たな卸資産

・商品、原材料及び貯蔵品 ……移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
一部の生鮮品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

……定率法。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物、構築物……………15～47年

機械及び装置、車両運搬具……………9～12年

②無形固定資産（リース資産を除く）

・ソフトウェア（自社利用）

……社内における見込利用可能期間（主に5年）に基づく定額法によっております。

・その他の無形固定資産

……定額法

③リース資産

……リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

①貸倒引当金

……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

……従業員の賞与支給に充てるため、翌事業年度の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

③退職給付引当金

……従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

- ④役員株式給付引当金 ……業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」に対応するため、対象取締役に対して、役員株式給付規程に基づく期末要支給額を計上しております。
- (4) その他計算書類作成のための基本となる事項
- ①退職給付に係る会計処理……退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- ②消費税等の会計処理 ……消費税及び地方消費税は税抜方式によっております。

2. 追加情報

（従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引）

当社は、対象取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除きます。）の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、対象取締役が中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust））」を導入しております。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第30号 2015年3月26日）に準じて、総額法を適用しております。

(1) 取引の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、対象取締役に対して、当社取締役会が定める役員株式給付規程に従って、原則として当社株式が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度です。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当事業年度末71百万円、78千株であります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

①担保に供している資産

建物	250百万円
土地	1,087百万円
投資有価証券	314百万円

②担保に係る債務

支払手形	146百万円
買掛金	344百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額…………… 12,413百万円

(3) 保証債務

次の会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

㈱丸水長野県水（借入債務）……………	1,020百万円
--------------------	----------

(4) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期債権……………	1,278百万円
短期債務……………	1,695百万円

4. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

売上高……………	5,055百万円
仕入高……………	13,294百万円
販売費及び一般管理費……………	3,206百万円
営業取引以外の取引高	
・ 貸貸収入等……………	165百万円
・ 受取利息……………	13百万円
・ 支払利息……………	0百万円

(2) 減損損失

当社は、保有固定資産をセグメント別に把握したうえで、各地域における物流機能・顧客政策等を勘案してグルーピングし、減損会計を適用しております。また、将来の使用が見込まれていない遊休資産、処分予定の資産等については、個々の資産ごとに減損の要否を検討しております。

以下の固定資産は、当初想定していた収益が見込めなくなったことや売却を予定していること等から、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。なお、回収可能価額を使用価値により測定している場合には、将来キャッシュ・フローを3.85%で割り引いて算定しております。また、正味売却価額により測定している場合には、売却見込額に基づき算定しております。

(単位：百万円)

場所	主な用途	種類			
		建物	土地	その他	計
長野県松本市	賃貸資産	49	340	—	389
長野県上田市	事業用資産	9	68	—	78
長野県松本市	売却予定資産	22	—	23	46
	計	82	409	23	515

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

株式の種類	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	1,066,196	384	4,200	1,062,380

- (注) 1. 当事業年度末の自己株式には「株式給付信託 (BBT)」が保有する当社株式78,300株が含まれております。
2. 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取分384株であります。
3. 自己株式の数の減少は、「株式給付信託 (BBT)」からの給付による減少4,200株であります。

6. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

繰延税金資産	
投資有価証券評価損	41百万円
関係会社株式評価損	113百万円
賞与引当金	154百万円
貸倒引当金	327百万円
退職給付引当金	149百万円
減価償却超過額	86百万円
資産除去債務	26百万円
減損損失	524百万円
未払社会保険料	24百万円
その他	146百万円
繰延税金資産小計	1,593百万円
評価性引当額	△996百万円
繰延税金資産合計	596百万円

繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△64百万円
その他有価証券評価差額金	△276百万円
その他	△9百万円
繰延税金負債合計	△349百万円

繰延税金資産の純額	247百万円
-----------	--------

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の主な項目別内訳

法定実効税率	30.5%
(調整)	
交際費等永久に損金算入されない項目	1.4%
受取配当金等永久に益金算入されない項目	△0.9%
住民税均等割	2.1%
評価性引当額の増加額	7.2%
その他	0.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.8%

7. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他の 関係会社 及び主要 株主	三菱商事㈱	204,447	総合商社	直接20.92	営業上の取引 役員の受入	商品の仕入 (注1)	3,904	買掛金	682

(2) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	大信畜産 工業㈱	95	食肉加工 及び販売	直接78.64	営業上の取引 役員の兼任	原料の有償 支給 (注1)	6,737	売掛金	558
子会社	信田缶詰㈱	80	水産缶 詰、その他 水産加工 品製造	直接70.31	営業上の取引 資金の援助 役員の兼任	資金の貸付 (注2)	220	関係会社 長期貸付金 (注3)	1,541
子会社	㈱ナガレイ	55	業務用食 品の卸売	直接100.00	営業上の取引 資金の援助 役員の兼任	資金の返済	42	その他流動 資産 関係会社 長期貸付金 (注3)	476

上記の金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 商品の仕入及び原料の販売は、市場価格を勘案して一般的な取引条件と同様に決定しております。
2. 資金の貸付は、市場金利を勘案して利率を決定しており、返済条件は、期日一括返済としております。なお、担保は受け入れておりません。
3. その他流動資産（1年内返済予定関係会社長期貸付金）、及び関係会社長期貸付金に対し、861百万円の貸倒引当金を計上しています。また、当事業年度において合計8百万円の貸倒引当金戻入益を計上しています。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	925円08銭
(2) 1株当たり当期純利益	34円11銭